

# 令和元年度 地域活性化活動奨励事業 活動報告

岩国市立美和西小学校 教頭 福江 大幸

美和西っ子ふるさと学習  
～地域とふれあおう LET'S TRY TOGETHER ～

## 1 はじめに（地域・本校の概要）

美和地域は、山口県の北東部、広島県境に位置し、東部は小瀬川を挟んで広島県の大竹市と廿日市市に接する東西11km、南北18km、面積127.5km<sup>2</sup>、人口約4,000人の地域であり、主要産業は農業である。

南部は近隣のダムの建設に伴い、道路が整備され、水と緑に囲まれた岩国市のベッドタウンとして団地開発も進んでいるが、北部では、高齢化により特産の茶や栗の生産が困難になり耕地の荒廃が見られ、過疎化も深刻な状況である。現在、美和地域全体では人口減少が問題となっている。

本校は、平成13年度に地域の秋掛小・北中山小・生見小・阿賀小・下畑小・西畑小6校を統合し、新たに美和西小学校として開校した全校児童68名（男子35名 女子33名）、7学級の小規模校である。

校区は広く、地域の歴史・伝統文化、自然環境等にも恵まれ、教育資源が豊かである。また、地域住民は教育活動に関心が高く協力的であり、本校に寄せる期待は大きい。開校以来、地域の教育資源を生かし、農業体験を始め、様々な体験活動に取り組んでいる。しかし、近年は地域住民の高齢化に伴い、ボランティア活動に参加する地域住民が減少していることが課題である。

## 2 取組の実際

### (1) 活動のねらい

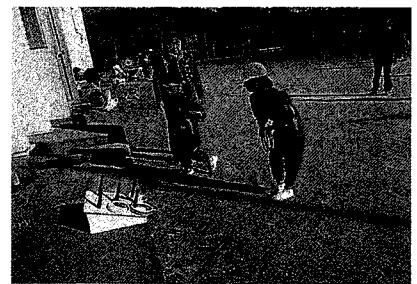
旧6校の小学校は、地域の交流の場として保存・管理されたり、地域の交流センターとして改築されたりしている。本校では、児童が地域の伝統文化等にふれることをめざして総合的な学習の時間等に各学年が旧校舎を利用し、「ふるさと学習」として、それぞれの地域の方々と交流活動を行っている。本事業の助成はその際の体験活動の活動費として活用させていただいている。

「ふるさと学習」は、児童に地域を愛する心を育むだけでなく、地域の高齢者の生きがいにもなっている。「ふるさと学習」の充実により、地域の活性化に繋がりたいと考えている。

### (2) 各学年の取組

#### ① 1年生〔旧西畑小学校へ〕

美和町の特産である「岸根栗」を使って「焼き栗体験」に挑戦したり、リーム転がし等、昔の遊びを体験したりした。児童は美和町の自然のよさを実感するとともに、地域の方とのふれあいを通して、言葉遣いや礼儀作法など、マナーについて学ぶことができた。



#### ② 2年生〔旧生見小学校へ〕

旧生見小学校の校舎探検をしたり、焼き芋体験をしたり、昔の遊び体験をしたりした。体験活動後、地域の昔話に関連する事柄を本で調べたり、質問したりするなど、美和町への興味関心が高まった姿が見られた。



③ 4年生〔旧北中山小学校へ〕

縄ない体験等、様々な活動を地域の方と一緒に取り組む中で互いに会話が生まれ初対面でも上手にコミュニケーションすることができた。お礼にリコーダー演奏や、総合的な学習の時間に学習した神楽についての発表等をした。地区の「子ども神楽」の練習している場所で、神楽について学習を共にしたことで一層お互いの心のつながりが深まったように感じた。

北中山地区は「神楽」が300年もの間続いている地域である。地域活性化においても「神楽」の伝統継承という視点は重要である。



④ 5年生〔稲作り〕

地域の指導者に指導をいただきながら、年間を通して「稲作り」に取り組んだ。「苗作り」から始まり、「田植え」「稲刈り」「脱穀」「もちつき」を行い、自分たちで育てたものを食べることを体験した。

各作業において、方法やコツを教わりながら体験することをとおして、稲作りの大変さや日本の稲作の課題、食へのありがたさ、地域への誇りに気づくことができた。



⑤ 6年生〔校区全体へ〕

6年生は総合的な学習の時間にこれまでの学習の総まとめとしてよりよい美和町作りをめざし、「MY TOWN 美和町～よりよい美和町をつくろう～」というテーマで学習を進めた。

その総仕上げとして、2月28日（金）に、「校区一週ウォーク」を実施する。約33kmの道のりを6年児童、保護者、地域住民、教員が歩く。

様々な体験活動により、児童に主体性や自己肯定感が芽生え、学校生活全体に活気が見られるようになった。

3 今後の取組

本校が取り組んでいる「ふるさと学習」はまさに、「学校を核とした人づくり地域づくり」への取組である。

今後、「ふるさと学習」をさらに充実させるためには、児童に付けたい資質能力や課題を地域住民と共有することや系統的に学習を積み上げていくことが重要である。そのためには、地域の教育資源を把握し、教科と有機的に結びつけながら年間計画に位置づける等、カリキュラムを再編していくことが重要である。また、これまでの取組では、地域のボランティアに本校の教育活動を支えていただく

「学校支援」からのアプローチが多かったが、今後は、学校が地域のためにできることを考え、行動したり情報を発信したりする「地域貢献」からのアプローチも考えていきたい。今後も地域と連携協働を図りながら、組織的計画的に取り組むことで児童の主体性や自己肯定感を高め、ふるさとを愛する心を育み、地域の未来を担う人材育成へと繋げていきたい。

